

「数理科学」2017年10月号

山崎和夫著

「[研究室の窓] 二つの巨星の下で：二人の恩師の偉大さ，物理学観，お人柄等～前編：湯川秀樹先生～」正誤表

親友小沼通二慶応大学名誉教授のご指摘に従って第8節を次のように修正します。

P.80，右の段，8節の出だし：

“晩年の”を“その後の”にする。

P.80，右の段，8節の冒頭：

“先生の定年間近の頃の”を“先生の定年後，”にする。

P.81，右の段，5行目～17行目，“いくつか～発見され，”を次のように修正：

いくつか現れた。ところが，宇宙線粒子の性質と湯川理論との不一致が次第に明らかになった。そこで湯川先生は無限大の出てこない場の量子論の構築に向かわれた。朝永振一郎先生は，摂動論でない近似法を開拓された。坂田昌一先生・谷川安孝先生・井上健先生は，宇宙線の粒子は湯川中間子が壊れて出来た粒子だと考えた。47年になってパウエル（英）たちが宇宙線中に，親の粒子（パイ中間子，パイオン）が壊れて子供の粒子（ミュウ中間子，ミュオン）になり，それがさらに壊れて電子になっている現象を発見した。こうして湯川先生と坂田先生の予言が正しかったことが解った。その後核子（陽子と中性子）とパイ中間子等の仲間（バリオン）が百種類以上発見され，